



日本でヒットした大衆小説を英訳し、米国で出版するベンチャー企業を米出版の牙城であるニューヨークに設立し、昨年4月から本格稼働している。日本でベストセラーとなった鈴木光司の「リング」、江国香織の「きらきらひかる」、北方謙三の「棒の哀しみ」、栗本薫の「豹頭の仮面」、グイン・サーガの「山田太一」異人たちの夏、田口ランディ「コンセンスト」、手塚治虫の漫画「ブッダ」、佐々木譲「ベ...



バーティカル社 酒井 弘樹 社長

### 日本の大衆小説を米国に売り込む男

りて17タイトルも本にして出版した。年間15冊のペースでこれからも英語単行本を出版する予定だという。米国で知られている日本人作家は、川端康成や三島由紀夫、吉本ばなななど純文学作家が一部インテリや本好きに知られているだけで、米一般大衆に受け入れられた日本の大衆小説、作家は実のところ皆無に近い。最近では、桐野夏生の「O.U.T.」（講談社インターナショナル）が米探偵作家協会のエドガー賞にノミネートされるなど、日本のエンターテインメント作品への注目度も高まっているが、現実には、研究書籍以外に翻訳ものを読むという土壌がない米

国で、日本の作品を翻訳して「大衆のドアをこじあけるのは大変です」と実感している。東京で日本経済新聞社に13年間勤務し、書籍流通とビジネス誌の記者をしていた。1998年6月に退職し来米、99年に「米国で日本の小説を翻訳出版する」という志を具現化するバーティカル社を立ち上げた。出版準備に3年かかった。1冊の本を出すのに2年近いリードタイムがあるという。いまは、再来年出す本の出版準備に追われている。片腕となって活躍するのが編集長のイオアニス・メンザスさん。18歳まで日本で育ち、プリンストン大とコロンビア大大学院で比較文学を専攻、翻訳全般を監督する。同社から出版される本はすべてアメリカでも屈指のブックデザイナー、チップ・キッド氏の手によるものだけに本の装幀はどれもみなシブイ。「欧米の一流作品と比べて遜色のないものばかりを選んでいますが、日本でもアメリカでは誰も知らないところが辛いところ。野球でいえば、一応、松井、野茂クラスを出しているつもり。アメリカでは新人だけ日本の大衆文芸を生き抜いてきた作家、作品ばかり。どんなバッターでも10割打つのは無理。4割打者でも最初から打てるわけではない。いまのやりかたを続けていけば、いずれ下カントと、当たらないはずがない。数の中から結果を出していく、ということなんです」と穏やかな話し口調のなかにも自信がこもる。夢は、ニューヨーク・タイムズのベストセラー・リストに載るような本を出すことだ。(三)

### 家族の相談役に

アメリカで異文化適応していくストレス

ハワイで行われた米国民理臨床学会(AAPA)で「ニューヨーク在住日本人のためのファミリーセラピー」というタ

ーを中心、適応過程の援助、ストレスを抱えた精神状態のサポート、家族力動を修正するなどの精神療法を施していくま

を立ち上げた。出版準備に3年かかった。1冊の本を出すのに2年近いリードタイムがあるという。いまは、再来年出す本の出版準備に追われている。片腕となって活躍するのが編集長のイオアニス・メンザスさん。18歳まで日本で育ち、プリンストン大とコロンビア大大学院で比較文学を専

### 女性総長

セッツ工科大

ホックフィールド氏

を深め、各学部の協同だ。同氏は、各学部の協同を深め、同大学の科学的向上への重要な声となる。科学的向上への重要な声となる。科学的向上への重要な声となる。

REDAC リダック 総合不動産サービス 9/4/2004 Vertical